

吳服 太物 賣類 出シ

廣告



細流の大河に沿ぎ、丁稚を仕揚て舗主とある。天賦の順序に委する理にて。取分商估の營業。利を後にして得意を前に。開店の日も朝倉山椒。小粒ながらもひり、と辛く。諸品の老舗の仕入にも。劣らぬと云御高評。千里と走る午歳よりまさる。今年の初賣迄。はる未寒き冬物類。も去歳の仕入の一般の相場に連て大下落。實に元價の半減にて。賣捌きの骨折損。草臥儲けも商業冥利。一時の損り利益の基と世間外の大賣。資本と根氣の續く。丈賣って。賣まくる大憤發の腕限り。地性の細き太物の。一反二反算用に合ぬ。承知精一倍。廉價に差上奉つれば。買主の徳の機會を外さず。唯今の内極安の上等品を召せや。召せと當坐の利慾に關はらぬ。主個が腹の帳合を報條の戲文に摸して。猫々道人記



二月十一日
十二日
十三日
當日 麗景呈上

新橋竹川町九番地
朝・倉屋

銀座貳丁目芳譚雜誌愛善社印行

吳服太物類売出シ廣告 文庫10-8031-9